



小学校で豚を飼う

先日、「豚がいた教室」という映画がテレビで放送されていました。小学校のあるクラスで、食べるための豚を飼うという内容です。これは命の大切さを伝える授業の一環として行われました。ただ、子供たちは飼っているうちに、豚に対してすごく愛着がわいてきて、自分たちが卒業する日まで「本当に食べるのか」それとも「下級生にそのまま育ててもらうのか」という議論を繰り返す…という内容です。この話しは実話を元にしています。私も数年前にドキュメンタリーを少し見ていたので、今回の映画がすごく見たかったのです。結果としては食肉センターに送られてしまったのですが、その間に子供たちは真剣に議論していました。しかも後で調べてわかったことなのですが、出演していた子供たちには台本がなかったそうです。実際の小学校で行われたように、自分たちの意見を真剣

にぶつけて欲しい…っという監督の思いから、実際の結果も伝えず、台詞も自分たちの思っている内容だったと聞いて、余計にうれしく思いました。また、実話の結果に関して多くの批判があった事も聞きました。ですので、この場で賛成、反対を口にする事はいたしません。ただ、私が大切だな～って感じることは、相手の意見を真剣に聞くって事です。最近では自分の意見だけをぶつけて、意に反するものは全て悪と考えることが多いように思えます。色々な考え方があるから仕方がない！という理由で、相手の意見をすべて受け入れない風習すらあるように感じます。その中で、一生懸命自分の考えを伝え、理解してもらえるように努力する姿勢や相手の意見を真摯に受け止める姿勢は、大変素晴らしいものだと思います。ただ、ちょっと残念だったのは、やはり小学生だと、い



くら6年生とはいえ、議論が感情論やただ単に、自分の意見の押し付けになってしまう場面が多かった事ですね…。同じ議論を中学生や高校生がやったら、さぞ面白いだろうな～なんて欲をかいてしまいました。ちなみに我が家でも、このテレビを見た後は白熱した議論が繰り広げられました。(笑)食べることの大切さから、戦争や原子力発電まで広範囲にわたり議論しました。議論…っといっても、私の家族の場合、相反する意見をぶつけ合うのではなく、自分の考えを説明し、お互いに相手の考えていることを共感する…って感じですけど…。でも結果はどうあれ、何かを考え、相手と話し合うことは、とっても大切です。



喜んでいただけました！のコーナー

先日、アスクルのお客様から「うちはアスクルしかやっていないけど、ちょっとレイアウトの変更や、古い家具の片付けもしたいんだけど…」と電話がありました。早速メーカーさんに訪問してもらい、現状と、どんな風にしたのかを、リサーチしてもらいました。すると、入れ替えは休日にやって欲しい…やこのサイズに収まるようにしてほしい…など、たくさんのお願がありました。それを

上手く調整をして、何とか商品を無事に収めることができました。私たちもホッとしました。私たちがもホッとしていたら、数日後に1枚のFAXが届きました。内容は「とっても使いやすくて、感謝しています。サイズもピッタリで、すっきりしました！」とありました。よかった～。喜んで使っていたにいます。文の終わりに、「びすてむ通信」楽しみにしています。っとも書かれていました。また自分がお好きな格言も送って

いただけました。うれしい限りです。今まではアスクルという通販だけでしか、弊社と関係がなかったのですが、こうやって、今まで以上の関係が築けたことに、すごくうれしく思います。これからも、末永く、よろしく願いいたします！

みんなのひとり言

先日、社長と宮崎さんがコピー機を納品に行きました。「すぐに帰ってくるよ…」なんて言っていたのに、帰ってきたのは3時間後…。「どうしたの？」って聞くと「コピー機を運び入れる際、階段を4段登るのにこれだけ時間がかかった…」って言っていました。たった4段なのにどうして…？って聞き返すと、「すごく狭くて、階段も急で、しかもカラーコピーだったので、無茶苦茶重たくて二人で持ち上げるのに、本当に辛かった」って言っていました。どうやら、今まで搬入してきた中でNO.1にしんどかったそうです。たった4段。されど4段…。恐るべし

今月の格言！

いくらのおんびりであっても
毎日前進していれば、
ずっと遠くへいけるものなのだ
(森 博嗣)

多くの人は、やる前から
たくさん事を諦めすぎて
いると思います。少しずつで
いいので、進む事、変化する事
が大切なんだと思います。